

主 題：家族に祝福をもたらす母
 聖書箇所：箴言 31章30節

今朝は「母の日」ということもあって、多くの皆さんが愛するみことばの一つである箴言のみことばから私たちはしばらく「母親」について学んで行きます。箴言31章をお開きください。もし、皆さんが今日一つだけ覚えられるとしたら、このことを是非覚えておいてください。あなたが「主を恐れる」女性になることによって、あなたも祝福されるし、あなたは祝福を人々に与える、そんな存在へと行って行きます。あなたは大きな影響力を持っています。多くの信仰の勇者たちの背後には信仰的な母親がいました。彼らは大きな影響を家族に与えてきました。何が彼らを特別にしたのか、どうして神が彼らをお用いになったのか、どうして彼らがそのようなすばらしい影響を与える女性として神に用いられてきたのか、そのカギはここにあります。「主を恐れる」ことです。そのことをこの箴言のみことばは私たちに教えてくれるのです。もちろん、私たち男性にしても同じことで、私たちが神の前に求められていること、それは主を恐れて生きて行くことです。今日はこのみことばを通して、主を恐れる女性とはどういう女性なのか、そのことをごいっしょに見て行きましょう。そして、願わくば、私たち一人一人がそのような男性に、また女性に変えられて行くことを期待するものです。特に、今日はこの箴言31章のみことばを通して、「家族に祝福をもたらす母」という主題にしましたが、そのような影響力を及ぼす、祝福をもたらす女性となるために、神は何を教えてくださいたいのかを見て行きます。

☆主を恐れる女性とは？

箴言31：30に「麗しさはいつわり。美しさはむなし。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。」と記されています。まさに、ここにこの箴言の著者が言わんとしていることが要約されているのです。女性でも男性でも同じことですが、ここではこのように女性のことが言われています。女性が追い求めて行くのは、外側の美しさよりも内側のものだと思います。容姿よりも大切なものがある、それぞれの心であると教えているのです。外側のものは移り変わって行くものです。あるとき、ほめたたえられていたとしても、それは次第に薄れてゆくものです。しかし、「主を恐れる女はほめたたえられ」続けて行くと言います。この賞賛は人々からだけのものではありません。神からの賞賛が約束されているのです。そして、このみことばを見たとき、どのような女性が主を恐れる女性なのかということを見ることのできるのです。一つずつ見て行きましょう。

1. 主への揺るがない信頼を持ち続けている

神をしっかり信頼している人です。箴言31：25には「彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日を待つ。」とあります。主を恐れている人というのは、神を信頼しているゆえに、将来への不安がないのです。私たちは日々の生活においていろいろな心配を抱えます。明日のことへの心配があったり、将来のことを考えるとき、心を萎えさせるような出来事が溢れています。周りを見ても、自分を見ても、それによって失望を抱くことは余りにも簡単です。しかし、私たち主を愛する者たち、主を恐れる人々は周りがどうなろうと、自分がどうあろうと、主への信頼をしっかりと持ち続けている人です。だから、明日に対しての希望をもっているのです。どんなことがあっても将来に対する希望をもっているのです。そのときにその人は、涙ながらに顔をしかめながら後の日を待っているのではなくて、みことばが言うのは「ほほえみながら後の日を待つ」のです。期待があるからです。希望があるからです。将来に対する喜びがあるのです。そういう人が主を恐れている人であるとこの著者は言います。

もちろん、このみことばを見て行くと、たとえば、運命論者的に、なるようになるよケセラセラとそんな精神で生きていたのではありません。神を信頼しつつ、同時に自分の責任をしっかりと自覚して、その責任を果たそうとしているのです。みことばを見て繰り返し教えられるのは、この女性は非常に勤勉な女性でした。31：10のところから記されています。「しっかりした妻をだれが見つけることができよう。」と始まります。彼女は将来に対するいろいろな準備もしています。たとえば、家族のために洋服を作ったり、購入したりと、何をしなければならぬかということをよく考えて、その責任を果たそうとしたのです。でも、気をつけないといけないことは、そのことばかり考えると、私たちの心は不安になります。これで十分だろうか、もっとしなければいけないのでは？と。

この女性は自分の為すべきことを精いっぱいしようとしたのです。そして、その背後にはいつも、神がすべてのことを導いてくださること、神に信頼して生きて行くことができるのだということを確信しているのです。神への強い確信というものは、不安ではなくて希望をもたらすものです。今、私たちが住んでいるこの世の中は、私たちに不安をもたらす世です。どの世代にあってもいろいろな不安があります。気をつけなければいけないのは、そういう不安を持ち始めると恐れを抱き、間違った方向に走って行ってしまふ危険性があります。一つみことばを挙げます。イスラエルの民がシナイ山の周りに集まっていた。神がイスラエルの民に、人類に律法を与えようとするその瞬間です。出エジプト記20章にそのことが出てきます。20：18-20「民はみな、雷と、いなく、角笛の音と、煙る山を目撃した。民は見て、たじろぎ、遠く離れて立った。：19 彼らはモーセに言った。「どうか、私たちに話してください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちに話にならないように。私たちが死ぬといけませんから。」：20 それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。神が来られたのはあなたがたを試みるためなのです。また、あなたがたに神への恐れが生じて、あなたがたが罪を犯さないためです。」。状況が想像できるでしょうか？シナイ山が神のご栄光に満ち溢れたのです。その光景を見たとき、彼らは非常な恐れを抱いたのです。19：16-19を見ると「三日目の朝になると、山の上に雷といなくと密雲があり、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。：17 モーセは民を、神を迎えるために、宿営から連れ出した。彼らは山のふもとに立った。：18 シナイ山は全山が煙っていた。それは主が火の中にあつて、山の上に降りて来られたからである。その煙は、かまどの煙のように立ち上り、全山が激しく震えた。：19 角笛の音が、いよいよ高くなった。モーセは語り、神は声を出して、彼に答えられた。」とあり、こういう光景を民は目撃していたのです。そのとき、彼らは非常な恐れを抱いたのです。恐かったのです。そのときに、20：20のみことばがモーセによって語られるのです。「恐れてはいけません」と、そして、「神が来られたのはあなたがたを試みるためなのです。また、あなたがたに神への恐れが生じて、あなたがたが罪を犯さないためです。」と、モーセはおもしろいことを語ります。この神への恐れというのは、神を恐がる恐れではなくて、神に対する心からの敬い、畏敬の念のことです。つまり、モーセがここで民に話していることは、確かに大変な恐怖に襲われているかもしれない、でも、そのときにあなたがたが気を付けなければいけないことは、神から離れていってしまうこと、神に背を向けてしまうこと、神への信頼を失ってしまうことがあつてはならないということです。なぜなら、この恐怖も神のご計画のうちにあることで、神がこの中であなたに期待していることは、あなたがしっかり神を見上げて、神に信頼して、そして、神に従って行くように、神から遠ざかるのではなく、逆に神に近づくようにと、そのことをモーセはここで語るのです。

私たちが気を付けないといけないことは、いろいろな心配事が心を満たす時、どこにあなたは答えを見つけて行かれますか？どこに解決を見出そうとしますか？いろいろな心配があります。健康への不安、子どもの教育のこと、将来のこと、就職のことなど、心を騒がすことは山ほどあります。不安になればなるほど、私たちは神に祈っていても埒があかないからと、だれかのところに助けを求めようと、人のところに走りませんか？不安が大きくなるほどに私たちはすぐにもその不安から解放されたいものだから、すぐに答えをくれると信じている人のところへ行って、解決を見つけようとしませんか？神がこのモーセを通して民に言ったことは、どんなときにもしっかりわたしを信頼しなさいということです。あなたに必要なことは、あなたの中にわたしに対する畏敬の念を増して行くことだと。この方が唯一の神なのだから、その方を心から敬って行くこと、そのことを私たちは学んで行かなければいけないのです。イザヤ8：12-13にこのようなみことばがあります。「この民が謀反と呼ぶことをみな、謀反と呼ぶな。この民の恐れるものを恐れるな。おののくな。：13 万軍の主、この方を、聖なる方とし、この方を、あなたがたの恐れ、この方を、あなたがたのおののきとせよ。」これは神がイザヤに対してこのように言っているのです。「この民の恐れるものを恐れるな。」とは、いろいろな恐怖を彼らにもたらすような様々なものを恐れてはならないというよりも、彼らが畏敬の念をもって崇拝している存在、つまり、偽りの神々のことです。人々が神以外のものに畏敬の念をもっている、そういった存在をあなたも同じように畏敬の念をもって敬ってはならないと言うのです。そして、「万軍の主、この方を、聖なる方とし、この方を、あなたがたの恐れ…とせよ」というのは、この方をあなたがたが敬う存在として掲げなさいということです。どちらにあなたは畏敬の念を示すのか、どちらをあなたは心から敬うのかです。神を知らない人々が敬うような存在をあなたがたは敬ってはならない、そういったものに心を奪われてはならない、あなたがたが心をしっかりと保たなければいけないことは、恐れるべき方、敬うべき唯一のお方、主をそのように扱うようにと

というのが、イザヤに対して語られたことなのです。私たちは全能の神を信じているはずですが、この方は完全な知恵をお持ちで私たちに最善のことを為してくださることも知っています。それなのに私たちは現実の問題として考えたときに、すぐに神以外のところに助けを求めてしまうのです。そのようなことがあってはならないと言うのです。先ほど出エジプト記20章を見ましたが、このような光景を見て、神からのメッセージを聞いた民が、32章になると、われわれをエジプトから連れ上った子牛を作ってくれと言って、神に逆らうのです。神以外のところに助けを求めようとするのです。人間とはこのように罪深い者なのです。神からの答えが待てないのです。なかなか忍耐をもって神の最善のときを待てないのです。すぐに答えがほしいのです。そして、失敗を犯すのです。そのようなことがあってはならないと、みことばは私たちに教えてくれます。詩篇147：11には「**主を恐れる者と御恵みを待ち望む者とを主は好まれる。**」とあります。主を恐れるだけでなく、神の最善のときを待つのです。そのようなことを神は喜ばれ、そのような人を神は愛されるのです。ですから、私たちが問題に遭遇したときどこにその解決を求めて出て行こうとするのか、神に背を向けてはいけないと言うのです。どんなときでも神に期待する者になりなさい、どんなときでも忍耐をもって神の最善を待つ者になりなさいと、そして、神の約束に立つことです。

主を恐れる女性とは、どんなときでも主を信頼しようとする人です。どんなときでも主に期待を置く人です。どんなときでも主の約束に立とうとするのです。もし私の心が騒いだら、不安に襲われたら、私が行くところはこの神のおことばです。神の前にひざまづくのです。私たちの心を主の前に注ぎ出すことができるのです。そして、私たちはみことばに立って、神がこのような約束をくださったから、神はこのようなお方だから私は信頼しますとなります。なぜなら、神を心から敬っているからです。この方を神として認めているから、この方がいかに偉大なお方かを知っているからです。このような態度をもってあなたは神とともに歩んでおられますか？私たちが学ぶべきことは、神を神として崇めることです。神の言われたことをそのまま受け入れることです。

2. 主の知恵を持っている

箴言31：26に「**彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。**」とあります。この箴言のみことばは繰り返し私たちに「主を恐れることは知識の初めである」と教えています。本当に知恵ある人とはどういう人でしょうか？その人は主を恐れる人です。先ほどから見て来ているように、主を恐れるというのは、主を心から敬うゆえに、主を傷つけたり悲しませたりすることを極力避けようとするのです。だから、この祝されている女性は自分のことばや態度に非常に注意をはらう人です。なぜなら、失敗はそこで起こすからです。言わなくてもいいことを言ってしまうたり、しなくていいことをしてしまったり、そのようなことで問題を起こしてしまいます。この女性は口を開いたとき知恵深く語るのです。語ることに最善の注意を払っているのです。彼女の語ることはみことばと一致しているのです。彼女は神のおことばに立って話し、行動しようとするのです。どうでしょう？私たちは自分のことばというものに最善の注意を払わなければいけません。その人の口からは人への非難であったり、悪口は出て来ないのです。必要なときに必要なことを語るのです。必要なときに主が喜んでくださることを語るのです。そのような人が必要なのです。このような世の中であって、私たちは益々このことばをしっかりと覚えなければいけません。主を恐れるということ、私たちはもっと真剣に考えなければいけないのです。主を恐れる者は神の知恵をもっている人です。そのためには私たちはしっかりみことばに立たなければいけない、そのためにはみことばを学ばなければいけないのです。私が今言わんとしていることは神のみことばに一致しているのかどうか、それが本当に神の教えに沿っているのか、そのことを考えながら私たちは話すことが必要です。

私たちクリスチャンが集まる時に必要なことは、信頼できるクリスチャンの友がいるなら、もしあなたの行なっていることや話していることがみことばと反しているなら、注意をいただくことです。そのようにして私たちは自分を成長させて行こうとするのです。しかし、そのように言われることは辛いかもしれないけれど、そうすることによって私たちは自分のことばや態度を吟味して注意を払って行くのです。主を恐れる女性はこのように神の知恵によって行動し話をする人です。みことばをしっかりと蓄えて行くことです。

3. 自分のことより人のことを優先する

利己的ではないのです。31：12に「**彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。**」とあります。彼女は自分の夫に対して、彼を優先して彼を助けて行こうとします。なぜなら、そのために神は女性をお造りになったからです。良い助け手が見つからなかったときに、神は男性のために良い助け手を与えられたのです。だから、女性の大切な務めというのは、その夫

を助けて行くことです。彼のことに心を配って夫のために生きて行こうとするのです。彼を励まし支援し、彼を持ち上げて行こうとするのです。そういう大切な務めを神は妻に与えられたのです。このことに関してペテロも私たちに教えています。Ⅰペテロ3：1－4「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとなるようになるためです。：2それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。：3あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、：4むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」、今私たちが見てきたように、こういう女性でありなさい、妻でありなさいとペテロは教えてくれます。外側よりも内側を優先するべきだと教えるのですが、1節に「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。」と命じられています。なぜこのような命令が必要だったかという、私たちは生まれながらになかなか服従できない者だからです。私たちは生まれながらに罪人であり、人に仕えるより仕えられることを期待する者です。アダムとエバが罪を犯してから、ここに問題が起こったのです。どちらが偉いのか、どちらが中心なのか、どちらがこの家の主人なのか、その戦いが生まれたのです。妻は夫にとって良き助け手であると見ました。だから、ペテロは「妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。」と命令を与えたのです。つまり、自分から進んでその人（夫）の下に自らを置くことです。それがこの服従です。私たちはその人の上に自分を置こうとします。それは間違っています。聖書の教えではありません。みことばが教えるのは「妻たちよ、あなたは自分の意志で自分の夫の下に自らを置きなさい」です。しかも、「たとい、みことばに従わない夫であっても」とあり、読者の中にはクリスチャンでない夫を持つ人もいましたから、ペテロはたとえそのような状況であっても従って行きなさいと教えます。ペテロは厳しいことを言っています、「無言のふるまい」と。なかなかできないことです。私たちはすぐに何か言いたくなって来る、もう少しこうしてくれたらとか…。でも、みことばが言うのは「あなたが喜んで、自らの選択で、彼の下に自分を置いて彼を助けて彼を励まして彼を支援して行きなさい」ということです。なぜそうするのでしょうか？もちろん、これが神のみこころであり神が喜んでくださることであるのは明らかですが、そうすることによって、その家庭において証が為されて行くからです。ですから気を付けなければいけないことは、いやいやしているなら良い証にならないということです。自分の意志でというのは、自ら喜んでその選択をすることです。そのときに、神はその無言のふるまいを用いてくださって、すばらしい祝福を与えてくださるのです。「神のものとなる」、彼らが救われて行くということです。

同時に、Ⅰペテロ3：5－6を見たとき、夫に服従して行く人というのは祝福を受けることが約束されています。「むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。」、「神に望みを置いた」というのは生活の中において、大丈夫かなと不安を感じるようなことがあったとしても、その妻たちは神を見上げ、神に期待を置いたのです。「神さま、私はあなたが教えてくださっていることに従って行きたい、夫を励まし支え助ける者となって行きたい、しかも喜んでそれを為して行きたい、いろいろなことで不安を感じることもあっても私はあなたを信じます、信頼します」と。そのようにして信仰の先輩である敬虔な婦人たちは歩んできたのだと言うのです。サラのたとえがこの6節に出てきました。「たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を行えば、サラの子となるのです。」、すばらしい女性の見本がここに示されています。夫を主と呼んで従った、そして、彼女はどんなことも恐れないうで彼に対して善を行ない続けて行ったのです。つまり、彼に従い続けて来たのです。だから、アブラハムのその人生を見たとき、そこに行動を共にしているサラの姿を見ます。そして、みことばの約束は、あのサラが大いに祝されたように、あなたもそのような歩みを為して行くなら「サラの子となるのです」と、サラに与えられた祝福をあなた自身も得ることができるのだということです。ですから、あなたがこのみことばに従って、夫に従順に従って行こうとするなら、すばらしい証がなされるだけでなく、あなた自身にも大きな祝福が与えられるのです。

そして、それだけではありません。家族にも祝福をもたらすのです。箴言31：23を見ると「夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。」と記されています。このような妻をもっている夫はその妻を信頼します。そして、この妻が神によって豊かに祝されるゆえに、夫も祝されもつともつ用いられる存在となって行くのです。31：11に「夫の心は彼女を信頼し、彼は「収益」に欠けることがない。」とあるように、彼女は神から託されている富を賢く使っているのです。無駄に使うことがなかった、だから、彼は妻を信頼しているのです。そして、23節

にあるように夫が大いに祝されて用いられる、「夫は町囲みのうちで人々によく知られ」と、「町囲み」とは長老たちの集まるところで、そこで諸問題について話し合ったり、裁判の場でもありました。そこにあって彼はよく知られ、「土地の長老たちとともに座に着く」、その中のリーダーとして彼は益々用いられて行くと言っているのです。家庭が祝され妻が祝されているゆえに、彼も大いに祝されて大いに用いられる存在となって行くのです。ですから、箴言12:4でソロモンはこのように言います。「**しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらず妻は、夫の骨の中の腐れのようなものだ。**」と、厳しいことを言っていますが、しっかりした妻は夫にとっての冠であるのです。今見てきたように、このような女性が神の前に正しく生きているゆえに、家族全体にすばらしい祝福が及んで行くのです。この女性は夫のために精一杯最善を尽くして行きますが、同時に家族の為にもそのようなことを為していることが31:13-19に出て来ます。「**彼女は羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。:14 彼女は商人の舟のように、遠い所から食糧を運んで来る。:15 彼女は夜明け前に起き、家の者に食事を整え、召使の女たちに用事を言いつける。:16 彼女は畑をよく調べて、それを手に入れ、自分がかせいで、ぶどう畑を作り、:17 腰に帯を強く引き締め、勇ましく腕をふるう。:18 彼女は収入がよいのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。:19 彼女は糸取り棒に手を差し伸べ、手に糸巻きをつかむ。**」、こうして彼女は家族の必要のために一生懸命働いているのです。家庭において彼女に与えられた責任を果たそうとしているのです。喜んで家族のために犠牲を払おうとしています。

しかも、彼女は神から託されたものを自分の勝手に使おうとはしていません。20節を見ると「**彼女は悩んでいる人に手を差し出し、貧しい者に手を差し伸べる。**」と、人々に対して関心を払っています。悩んでいる人や必要のある人に喜んで手を差し伸べるのです。ですから、見てきたように彼女は家族のために喜んで犠牲を払おうとするのです。夫のためにも、子どもたちのためにも、そして、周りの困っている人や悩んでいる人たちに対しても喜んで助けの手を差し伸べて行こうとしているのです。だから、神はこの女性を大いに喜ばれたのです。

今私たちは、こうして利己的ではないすばらしい女性を見てきたのですが、これは既婚の女性のことと思ってしまうかもしれませんが、未婚の女性にも同じことが言えるのです。彼女はいろいろな問題に会い、不安も抱えたでしょう、いろいろな恐れもあった、確かに、このみことばが教えるように21節「**彼女は家の者のために雪を恐れない。**」と、彼女は恐れなかった、しかし、いろいろなことで恐れを抱くこともあったでしょう。彼女はそのためにより準備をし、そして、しっかり神を信頼していたのです。そうすると、未婚の人も同じです。不安や恐れを経験します、年齢のことを考えたり、結婚のことを考えたり、将来のことなど、いろいろなことが皆さんの心に不安を及ぼします。そのときに、皆さんがする間違った選択は神から離れて自分で答えを見付けようとする事です。それをしてはならないと言います。あなたにとって必要なことは、神に近づいて行くことです。神があなたに期待していることは、主に対する畏敬の念を深めて行くことです。そのため、罪から離れ、神を信頼しない生き方から神を信頼する生き方に変わることです。神に答えを見出そうとする生き方に変わることです。私たちは皆神に愛されているものです。神は私たちの必要を十分に知っておられます。何が最善かを知っておられ、神はその最善を為してくださっているのです。私たちはその方を信頼することができるし、信頼するはずです。この方は神だから、この方は主権者だから、創造主だから、私たちの主人だから、私たちのために喜んでいのちを捨ててくださった方だから、私たちはこの方をしっかり見上げてこの方に信頼を置く、そのような信仰の歩みこそが信仰者にふさわしい歩みではないですか？

彼女はいろいろな問題があってもそこから逃避して神以外のところに助けを求めようとはしなかった、神のところにより目を向けたのです。だから、28節「**その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言ひ、夫も彼女をほめたたえて言う。**」と、子どもたちから彼女はほめたたえられるのです。そして、夫からもほめたたえられます。29節「**しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはすべてのまさにまかしている。**」と。」、このように皆が彼女をほめたたえるのです。未婚の皆さんも同じです。あなたが本当に主を恐れ生きて行くなら、あなた自身が神から多くの祝福をいただくだけでなく、人々に祝福をもたらす人になるのです。人々はあなたのところに来たいと願います、なぜなら人々はあなたから神の知恵を聞くことができるからです。このような女性に変わって行くカギは何度も話したとおり、「主を恐れる」ことです。ぜひ、覚えてください。どんなときでも常に隠れたところを見ておられる神を覚えて私たちは生きる事です。どんなときでも、どんなところでも、どんなことでも、すべてのことを見ておられる、それが私たちの神です。私たちはその神に私たちの内側を変えていただくように、私たちがもっともこの方を恐れ、この方を愛し、

従って行く者に変えられることを期待して、この神にそのことを求めて歩んで行くことです。そのときに、神は私たちを変えて行ってくださるのです。

今日、私たちは「主を恐れる女性」についていくつか見してきました。この女性はいつも主を信頼しました。この女性には主の知恵がありました。そして、この女性は自分のことよりも周りの人のことを優先したのです。これが主を恐れる女性である、これが神が喜ばれる女性であると、こんな女性に神はあなたを変えて行ってくださるのです。既婚の皆さん、もう遅いことはありません、今日から変わって行くことができます。何をすればいいのかはみことばが教えてくれました。それをする決心をして、その歩みを始めて行くことです。未婚の皆さんも同じです。今日からこの神が教えてくださることに従って歩んで行くことです。そうすれば、あなた自身が変わられて行きます。

「良い妻を見つける者はしあわせを見つけ、主からの恵みをいただく。」（箴言18：22）、このような女性に神はあなたをしようとしてくださっています。どうぞ、主のみわざをあなたの罪によって妨げることがありませんように！